

# 棚田学会通信

第17号 2005年10月30日

発行/棚田学会

〒184-8577

東京都小金井市本町6-5-3

(ふるさときやらばん内)

TEL:042-381-6721

FAX:042-383-8614



栃木県茂木町石畑の棚田



## 【目次】

巻頭言	棚田からの情報発信.....	栃木県茂木町長 古口 達也...1
各地の情報	マシジミの養殖—小粒でも生産体系の変革が .....NPO法人 野外調査研究所 吉川 國男...2	
	棚田学会に入会して思うこと.....	東京都練馬区在住 高島 良哉...3
	『棚田』という不思議.....	山形県大蔵村在住 矢口 智...4
	天正期には拓かれていた棚田.....	國學院大學 小川 直之...5
日本の棚田百選の紹介	両合棚田 (大分県宇佐市院内町滝貞) ..... 余谷 21 世紀委員会・両合棚田を守る会 米生産部会 川野 幸好...6	
会員通信	第 11 回全国棚田サミットに参加して.....	山口県周南農林事務所農業部 柴田 しほ...6
官庁ニュース	重要文化的景観の選定に向けて—文化財保護法改正のその後—.....	本中 眞...7
事務局ニュース	第 7 回棚田学会大会報告 他.....	8



## [巻頭言]

### 棚田からの情報発信

栃木県茂木町長 古口 達也

本町の棚田は、里山の谷間を利用した傾斜のきつい谷津田であって、眼下に遠くの山々や田園風景が一望できるものではない。

多くの棚田は江戸時代以降に開墾されたと思われるが、先代の人たちが、額に汗を流しながら、ひと畝、ひと畝耕して、少しずつ広げていったという歴史がある。

しかし、昭和40年代からの米余りから減反政策が実施されると、耕作条件の悪い棚田が真っ先に休耕されてしまった。2、3年作らなくなると棚田は水持ちが悪くなり、復旧が難しくなる。そして無惨にも農家の人に見放されて、草刈りもされずに荒れ果てた耕作放棄地になってしまったのである。

そんな中、平成11年、入郷地区の石畑の棚田が烏山町国見の棚田とともに日本の棚田百選に選定された。平成12年度から中山間地域等直接支払制度がスタートし、中山間地域の役割、重要性が見直されることになる。棚田は生産ばかりでなく、水源の保全、洪水調整機能、多様な生き物の宝庫であるという今まで気づかなかったことが再認識されてきた。

平成12年11月、石畑の棚田において、多くの都市住民のボランティアが参加し、地元農家の人といっしょに荒れ果てた棚田の草刈りを行った。農家の人は少しずつこの作業を通して、棚田の貴重な役割と保全の必要性を理解しはじめた。その後4～5回作業を行い、約50aの棚田を復旧することができた。

平成14年からは、14組のオーナー制度がスタートした。復旧した棚田を活用し、オーナーの家族の明るい歓声が山あいにはこだました。今年、オーナー数が51組になり、集落の人口よりも多い人たちがこの地区を訪れて農作業を体験している。

本町は、今年度からスタートする新たな中山間地域等直接支払制度に積極的に取り組んでいるが、交付金額は町全体で1億円を超える見込みで、各集落では9割以上を共同取組活動費に回し、棚田の保全活動、都市農村交流事業などを通じた地域活性化をテーマにさまざまな事業を展開していく予定である。

棚田がある中山間地域は、市町村合併や過疎化・高齢化が進展し、疲弊著しい地域も少なくない。

しかしながら、本町としては、棚田を都市住民と連携して守り、魅力ある地域資源としてとらえ、新たな交流事業を構築して、村おこしや定住対策の一つとして活用し、自信と誇りを持ってさまざまな情報発信をしていきたいと考えている。



## [各地の情報]

### マシジミの養殖

小粒でも生産体系の変革が

NPO 法人 野外調査研究所 吉川 國男  
(立正大学文学部)

シジミは肝臓や目の健康に良いと古くから親しまれてきた。日本列島内には10種ほどのシジミが生息するといわれるが、メジャーなのはヤマトシジミ、マシジミ、セタシジミの3種である。

殻の色が黒いヤマトシジミは汽水区に生

息し、吸い物として広く親しまれている一方で、内陸部に生息する黄緑色のマシジミは農薬や下水、冬季の水干しのため激減してしまっている。美味しさはヤマトシジミより上、身肉も厚い。生息条件は、清流が流れる砂泥の底質がよいが、広い好適地には恵まれなかったため農村の食卓にのぼる程度で、販売食品にもならなかった。

当研究所では、棚田の保全・活用策として「生き物と共生する稲作」を提案しているが、その一策として取り上げたのが、マシジミの棚田における養殖である。「棚田でマシジミ!」、たぶん、否定的な反応を受けるかも



しれないが、1個のマシジミが1年で800個に増えるという可能性に望みを託して、養殖実験に踏み切った。

実験地は埼玉県内の2箇所。1箇所は入間郡越生(おごせ)町上野の山間棚田、もう1箇所は秩父郡横瀬町寺坂の山腹棚田である。越生の場合は、休耕田に2m×15mの養殖池を2本掘って設けて沢水を導入し、各養殖池の流水口の幅を2対1にして水量、流速を変え、マシジミの生育や増殖への影響、養殖池内の分布状況などを比較調査する。2つの養殖池には今年6月、同じ水系の水路から採取したマシジミをそれぞれ百個ずつ放流した。横瀬の場合は、7月、棚田の田んぼの1角に設けた3㎡の養殖池と、その山側の滞水堀に計41個のマシジミを放流した。これらの実験を主導するのは水生生物の研究者である大熊光治理事、元県水産試験場職員の大渡斉会員。マシジミは、プランクトンや葉などが腐った有機物などを食べる。ここで定着すれば後は量的にどう増やすか技術開発が必要であるが、魚ほど手間はかからない。実験は3年くらい継続し、データを分析して、結果が良ければ農業関係者に広めていきたい。今年度は、棚田環境に近い生息条件のもとで実験し、ゆくゆくはマシジミ生息の好適条件の水利、底質土壌へと改良を図りながら実験を重ねていきたいと考えている。



越生の実験池に放流する会員

この養殖実験が新聞に報道されると、行政機関や棚田の保存団体などから激励、照会から、マシジミの提供依頼まで、各地からアクセスがあったが、マシジミの遠隔地へ提供については、生物のDNA上、好ましいことではないので、できるだけ在地でシジミ調査をしたうえで地元のマシジミを使用されるよう回答した。

同様の養殖実験は、他の魚介類や水生昆虫でも可能であるので、草木で放置されているような棚田があれば、積極的に実施されるよ

う期待したい。この場合大きな障害になるのは、冬季の水涸れである。冬季に水田や水路に水が確保できないような農業政策は、一部見直しを行政当局をお願いしたいものである。内陸部での動物性蛋白の生産と農村景観の復原という観点からも提言したい。

★★★

## 棚田学会に入会して思うこと

東京都練馬区在住 高島 良哉

私の少年時代には、山田、迫田、谷地田などとして、山から湧き出た水を水田や溜め池に貯留し、かんがい用水として稲作を続けていました。それが当然のこととして、先祖の土地を大切に守ってきたものです。

しかし農業の近代化と経営の多角化の必然性に伴い、現在では中山間部の急傾斜地の水田は荒廃しています。また土砂崩壊など重大な災害に関係していることが知られています。

私は15年前、バリ島の棚田を訪れる機会があり、谷の彼方に階段状の稲と案山子の風情に魅了されました。しかし先日の棚田学会シンポジウムの報告では、バリ島は観光開発に伴う就業変化で農業従事者が減少する一方、島の観光資源として棚田景観の維持を求める観光業者との確執があるとのことでした。



写真①



また、これらの観光開発で、かんがい用水路の切断、かんがい水の都市用水への転用など、かんがい組織の危機、ひいては農業の持続が懸念される報告がありました。

私は念願であったフィリピン・イフガオ州の棚田に、本年1月に訪問する機会がありました。続いて5月には棚田学会による、中国雲南省・昆明の棚田訪問の機会を得ました。

フィリピン・ルソン島北部、イフガオ州の4地区は世界遺産に指定されました。特にバナウエでは、急斜面に百数十段余のライステラスとして有名です。しかしここでも棚田の崩壊が続いています。(写真① 急傾斜部中腹の崩壊地)

イフガオの農民達は、先祖の残したこの素晴らしい棚田を維持しようと努力しています。しかし、崩壊棚田修復の技術者や若者の減少、および修復予算の不足が次第に崩壊面積を拡大しているとのことでした。ユネスコは、2001年にこれを危機遺産に登録しました。

観光を主体とした豪華な施設と、質素であり続ける村の生活に大きな格差が生じるとともに、伝統的な豊作感謝の儀礼や宗教的に重要な意味を持つ踊りも、観光客相手にショー化されています。(写真② 村伝統の舞踏)

一方、中国・昆明の棚田では、雄大・壮観で1000年余の歴史を持つ遺産を、少数民族ハニ族によって引き継がれてきたもので、現在世界遺産に登録申請中です。

この棚田の地形は、2千~3千メートル級の斜面を利用し、山の上には森林、中腹には村落、村落から麓まで棚田となって、これがハニ族の三大要素です。これが素晴らしい景観を創りあげ、現在も厳然と地域の文化として継承されています。

このような傾斜地水田の継続的な耕作には、水資源・土地資源と人間活動が一体化した地域の形成として、今後とも大きな意義があると思っています。



写真②

★★★

## 『棚田』という不思議

山形県大蔵村在住 矢口 智

世の中には不思議なことがいっぱいある。そのいっぱいある不思議なことの中でも、今一番不思議なことは「棚田」じゃないかとまじめに考えています。

自然の不思議も科学技術のいろんなことも、詳しいことは別にして説明を聞けば、まあ何となく分かるような気がする。そして、そのほとんどが人類とか文明とかの「進化」に結びついているように思っている。でも「棚田」の近頃の光の当たりようは何なのだろう。少し前までは住民の離村と耕作放棄という言葉が当たり前のようになっていた「棚田」の地域に不思議な人が集まって。美しいだとか機能性だとか、はては研究だのサミットだのって。昔から変わらない田んぼを、今改まって「日本の美しい原風景」と言われても、何が何だかこんな不思議なことは今まで無かった、と思うのは私だけなのだろうか。

愛知県鳳来町の「棚田サミット」に参加して多くの人と出会い、いろんな話を聞くことができた。特に印象深かったのは、大きな災害があったこと、そしてそれを乗り越えてきたこと。石積み・石運びの再現をしてくれた父ちゃん達の笑顔が忘れられない。

ふるさとの若い人達が、やがてきつと受け継いでいこうと思わせる力強さや明るさ、大きな魅力が感じられた。良い思い出になりました。ありがとう。

私の所の「四ヶ村(山形県大蔵村)の棚田」も今元気になっている。120haの面積がある棚田に立ち向かい、知恵を出し合っているいろんなイベントや交流を始めている。本当は、地元の人は大変だろうな、辛いと思うことも多いだろうな。でもそう考えてしまうときりが無いから、めいっぱい面白いことやって、楽しむことが一番だと思う。地域が輝くためにはまず自分が輝くこと、自分自身・自分達がまず楽しむことが大事。

8月7日の「棚田ほたる火まつり」に家族と出かけて行きました。夕方、まだ明るいうちからたくさんの人。おじいちゃんもおばあちゃんも孫の手を引いて楽しそうにやって来る。都会から来たような老夫婦、若いカップルに、「何でまたこんな所に」と、つい思っただけで見たりする。でも、手作りのイベントは、ほのぼののしていて暖かくて、とても気持ちが良い。

暗くなってきた、ホラホラ・浮かび上がってくる不思議な光。時間が止まってしまったような夕暮れのひととき(夕風の時かな)を



過ごし、この光景がこんなに素晴らしいものだと言うことを初めて知りました。

もっと多くの人に感じてもらいたいと思う。ここに来られなかったもっとも多くのの人に、この素晴らしい一時を感じてもらいたい。

秋の刈り入れの時期が来て、一年で一番忙しい時期を過ごし、もうすぐ白い雪の世界へと入っていく。そして長い冬を過ごしやがて来る春。きっと、今年よりもっと楽しい思い出が作れる、素晴らしい一年。そう確信しています。

でもやっぱり、「棚田」は不思議だなあ。  
(平成 17 年 10 月 5 日)



平成 17 年 8 月 7 日の「棚田ほたる火まつり」

★★★

### 天正期には拓かれていた棚田

—高知県津野町北川・宮谷の民俗調査—

國學院大學 小川 直之

毎年、大学で学生たちと行っている課外の民俗学研究会の民俗探訪、今年の 8 月には高知県津野町北川で行いました。國學院大學民俗学研究会は、昭和 26 年に結成され、半世紀以上続いている会です。井之口章次先生を指導者にして始まり、私もこの会で昭和 40 年代に民俗学を学びました。現在は私が引継ぎ、調査地は学生たちが決めて、夏と冬に合わせて 10 日近くの調査をしています。

津野町北川は、土讃本線須崎駅からバスで新莊川沿いに溯って 50 分あまり、分水嶺を越えて四万十川支流の北川川の最上流部に位置します。津野町は平成 17 年 4 月 1 日に東津野村と葉山村が合併して誕生したばかりの町で、北川は旧東津野村にあって、西隣が檜原町です。東津野の北部には四国カルストがひろがり、冬には積雪をみます。

大字北川は、北川川に沿って東から西に、北川、宮谷(みやだに)、木桑(きそう)、高野の 4 集落からなり、民俗調査はこれら 4 集落

を対象としています。ここには津野山古式神楽と命名されている神楽が伝えられ、神楽太夫によって 17 の舞をもつ神楽が 11 月の祭りに奉納されます。檜原でも同系統の神楽があって、檜原・東津野を合わせて津野山郷といっています。高野の三島神社には全国にも例が少ない回り舞台をもった歌舞伎舞台があって、村人たちが歌舞伎を演ずるなど、豊かな民俗文化をもつ地域です。



宮谷の棚田

広大な棚田が開かれているのは宮谷で、標高 600 ㍎から 450 ㍎の斜面地で棚田耕作が行われています。小規模な棚田は外の集落にもありますし、現在は茶畑に転換している棚田もあります。宮谷には、スヤマ、カミタニ(上谷)、カミナカ(上中)、シモナカ(下中)、ミネ(峯)の 5 集落がありますが、広大な棚田は峯にあります。峯にある家の最高峰が標高 600 ㍎付近で、ここから東に広がる斜面地に棚田が拓かれ、最下端の水田は標高 450 ㍎付近にあります。最高峰から最下端の水田までは直線距離にしたら 500 ㍎ほどになります。

棚田の規模は、初めて棚田オーナー制度がとられた隣町、檜原町神在居の棚田より大規模で、写真は、峯の最高峰付近から棚田の拓かれた斜面地を見たところです。石垣積みによる棚田もありますが、多くが土坡を築いての開田で、1 枚ごとの水田面積が大きいのが特色です。峯の最高峰にある家々の背後の谷から水を引いて灌漑水としていますが、この水を利用した棚田は天正年間(1573~91 年)の検地帳に記載され、16 世紀後半には開田されていたのがわかります。この検地帳を使った研究は、地元の郷土史家・川田清雄さんによって進められていて、今夏の調査では川田さんをはじめとして多くの方々にお世話になりました。宮谷では、戦後までは焼畑と棚田耕作を中心として生計を立て、今も村はずれへの魔除けの「大わらじ」掛け、夏神祭、



春秋の薬師祭りなどさまざまな民俗行事を伝えています。

宮谷は独自の楽しいホームページをもっています。閲覧をお勧めします。

(<http://www5.inforiyoma.or.jp/~warazi/syokukai.htm>)

★★★

## [日本の棚田百選]

### 両合棚田

(大分県宇佐市院内町滝貞)

余谷 21 世紀委員会・両合棚田を守る会  
米生産部会 川野 幸好



### 大分県宇佐市院内町の両合棚田の集落

大分県宇佐市院内町の両合棚田は、小平と滝貞の 2 集落から成り立っています。

その両合棚田は、大分県の北部に位置し、国道 387 号線の下余より余谷に入り南へ 4 km の所に位置し、標高は 300m であり、地域の東側が滝貞集落、西側が小平集落で、その中央を滝貞川が下流に余川、恵良川、駅館川を経て豊前海にそそいでいます。

その源流より用水を確保しているため、実に美味しいお米が生産されています。

周囲は山林に囲まれ清らかな地域で、自然の恵みがいっぱいです。耕地は東西に階段状に拓けており、実にきれいな雑石積みで、素晴らしい景観を有しています。昔ながらの耕地で土地改良事業はいっさい施工されてないため、大型機械での作業はできず、耕うん機以下の機械での作業のため、効率は悪く、手作業が中心になっています。用水も一本の水路で確保しているため、上から下へと順に、かけ流しの状態で行っています。こうした棚田を守るため、地域ぐるみで耕作放棄地の解消につとめ環境保全に努めています。

このような棚田で、消費者に安心安全な美味しいお米を届けるため、有機減農薬栽培として特別栽培米の生産を行っています。

またこの棚田を中心に余谷の 9 集落 100 戸の農家で、地域活性化と村づくりのため「余谷 21 世紀委員会」を設立し、その中に、米生産部会、山の恵(めぐみ)部会、加工部会の 3 部会を結成してそれぞれが活動を行っています。

また、大分大学教育福祉科学部の学生と年 6 回のフレンドシップ事業(草刈り、イモ植え、草取り、田植え、稲刈り、シイタケ駒打ち)を行っています。こうした中で、両合棚田の視察には全国各地からカメラ、ビデオを持って訪れていますので、現在公衆便所、休憩所、駐車場等を整備しています。

お米については、架干米で「余(あまり)にうまいせせらぎ米」として販売しており、大好評を博しています。

多くの方々のご来訪をお待ちしています。

★★★

## [会員通信]

### 第 11 回棚田サミットに参加して

山口県周南農林事務所農業部 柴田 しほ

私は、このたび初めて全国棚田サミットに参加させていただきました。「愛・地球博」の開催期間にあわせて、9月2日～3日の2日間、愛知県鳳来町の四谷千枚田を中心に開催されたものです。大会2日目の第一分科会での話題提供者として参加したため気が重い部分もあったのですが、実際には、棚田を背景に頑張っておられるいろいろな方たちとお会いすることもでき、本当に貴重な2日間を過ごさせていただいたと思っています。

標高差 200m の範囲に広がる四谷千枚田見学では、そこで確実に暮らしを営みながら棚田も守っておられる地元の皆様の姿を見せていただき頭が下がる思いでしたし、小中学生の研究発表にもいたく感激しました。また、夜の懇親会での郷土芸能「はねこみ」披露では、地域に受け継がれている伝統文化の貴さをあらためて実感しました。

これらに加え、分科会での討議を通じて「暮らしの営みが守られているから、棚田も守られる」のだということ、あらためて確認できた2日間でした。単純に「美しい景観としての棚田を守る」というだけではなく、「棚田を背景とした暮らし」ということの重みや価値を、農村・都市双方の人たちが真摯に考え理解した上で、行動につなげていくことが大切なのだと感じています。

今回のサミットでの経験もふまえ、私自身、



今後行政としてお手伝いできることを頑張っていきたいと思っています。

★★★

## 【官庁ニュース】

### 重要文化的景観の選定に向けて

#### －文化財保護法改正のその後－

文化庁記念物課 本中 眞  
改正文化財保護法が施行され、文化的景観の保護制度がスタートしてから早6ヶ月が過ぎました。文化庁では、この10月の文化審議会文化財分科会に第1号の重要文化的景観の選定について諮問したところです。今回の諮問に係る文化的景観は柵田ではありませんが、これに続いて選定の準備を進めている各地の文化的景観の中には、多くの柵田が含まれています。ここでは、このたびの法律の改正により導入された文化的景観の保護制度の概要について説明し、制度の定着の方法について検討するために実施してきたモデル事業と、本年度から実施している国庫補助事業の概略について紹介したいと思います。

#### 1. 文化的景観の保護制度の概要

改正された文化財保護法では、文化的景観は「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と定義されています。地域に固有の風土と、そこに生きる人々の日常生活・生業を通じて形成された土地利用が持つ文化的価値を保護するための制度です。

文部科学大臣は、都道府県又は市町村の申し出に基づき、景観法に定める景観計画区域又は景観地区内にある文化的景観の中から、保存のために必要な措置を講じているものうち特に重要なものを重要文化的景観として選定することができることとなりました。

#### 2. いくつかのモデル地区について

##### －文化的景観保存・活用事業－

文化的景観の保護制度に関する運用上の課題を明らかにするとともに、制度の浸透を図ることを目的として、文化庁では平成16・17年度に9つの地域を選んで文化的景観保

存・活用事業(モデル事業)を行っています。その内容は、①自然、歴史、生活・生業の3つの側面から行う「文化的景観保存調査」をはじめ、②保存管理・整備活用・運用体制などの観点に基づいて策定する「文化的景観保存計画」、③文化的景観の価値を知り、その適切な保存・活用に向けて関係者間で合意を形成するために実施するフォーラムやワークショップなどから成り、各地において様々な成果が生まれ、課題が報告されつつあります。

#### 文化的景観保存・活用事業(モデル事業)の実施地域

所在地	文化的景観の名称	文化的景観の種別
北海道 中標津町	中標津の 格子状防風林	複合景観 (森林景観・ 河川景観・ 草地景観)
栃木県 宇都宮市	大谷石(採石場) の景観	集落に関する景観
千葉県 鴨川市	大山の千枚田	水田景観
滋賀県 近江八幡市	琵琶湖の水辺景観	複合景観 (河川景観・ 湖沼景観・ 水路景観)
京都府 京都市	北山杉の林業景観	森林景観
兵庫県 稲美町	稲美のため池群	池沼景観
愛媛県 宇和島市	宇和島の段々畑	畑地景観
福岡県 柳川市	柳川の掘割景観	水路景観
佐賀県 相知町 (現唐津市)	蕨野の柵田	水田景観

#### 3. 文化的景観保護推進事業

現在、文化庁では、モデル事業以外の地域についても、国庫補助事業の下に同様の取組みを進めているところです。国庫補助事業には、上記の3つの項目以外に、重要文化的景観に選定された後に柵田の石積みなどの重要な構成要素について行う修理・復旧・修景・防災などの事業が含まれています。このような国庫補助事業をうまく活用して、地方公共団体と所有者との緊密な連携の下に、文化的景観の適切な保存と、それを活かした独自の地域づくりの取組みが進むことが期待されます。



[事務局ニュース]

平成 17 年度柵田学会総会(平成 17 年 8 月 7 日開催)にて、下記の通り、本年度活動報告及び予算が決定いたしました。

また、初代会長石井進の遺徳を偲んで設けられた柵田学会賞の贈呈式では、賞状と盾の授与を行った後、各受賞者の記念講演を行いました。

なお、第 2 回柵田学会賞の候補者を募りますので、自薦、他薦を問わず、ふるってご応募ください。(詳しくは、柵田学会賞応募用紙をご覧ください。)

平成 17 年度活動計画

- |   |     |
|---|-----|
| 1. 柵田学会大会 (平成 17 年度大会 : 平成 17 年 8 月 7 日開催)                        | 1 回 |
| 2. 理事会 (平成 17 年 7 月 16 日開催済み、臨時開催を含む)                             | 8 回 |
| 3. 研究会・談話会・見学会  | 5 回 |
| 4. 柵田学会誌『日本の原風景・柵田』(第 7 号)<br>(柵田学会誌第 6 号 : 平成 17 年 7 月 31 日発行済み) | 1 回 |
| 5. 柵田学会通信 (第 17, 18, 19 号)  | 3 回 |
| 6. 柵田学会賞  |     |

平成 17 年度予算

(平成 17 年 7 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日)

収入の部		支出の部	
事項	予算額	事項	予算額
会費収入	1,920,000	旅費	200,000
普通会員 400 名 × 4,000 円	1,600,000	講師旅費 (研究会等)	100,000
学生会員 10 名 × 2,000 円	20,000	連絡旅費 (現地見学会等)	100,000
賛助会員 30 名 × 10,000 円	300,000	謝金	160,000
図書販売	100,000	編集謝金	60,000
前年度繰越金	1,978,366	アルバイト謝金	100,000
		印刷費	1,350,000
		会誌第 6 号 (B5、84 頁)	1,100,000
		学会通信 50,000 円 × 3 回	150,000
		大会資料等	100,000
		通信・郵送費	600,000
		会誌発送費 (第 6 号)	160,000
		学会通信発送費 (17・18・19 号)	250,000
		郵送費	40,000
		通信費 (電話、FAX、切手等)	150,000
		ホームページ運行費	45,000
		会議費	200,000
		理事会・編集会議他	200,000
		大会会場設営費	80,000
		柵田学会賞	50,000
		消耗品費	13,366
		予備費	1,300,000
合計	3,998,366	合計	3,998,366

第 11 回柵田学会現地見学会

静岡県松崎町石部の柵田

日時：平成 17 年 12 月 18 日、19 日

費用：1 万円(宿泊 2 食付費用、昼食 2 回)

定員：20 名(定員になり次第締切。)

集合場所：JR 伊豆蓮台駅

集合時間：12 月 18 日午前 11 時 45 分



松崎町石部の柵田

編集後記

10 月 8 日(土)開催の談話会では、長島忠美氏(衆議院議員・旧山古志村長)をお招きし、旧山古志村の現状を報告して頂きました。中越地震から 1 年、未だ仮設住宅での暮らしを強いられている旧村民全員を村に返す目標を自分に課し、自身が最後に仮設を出るその日まで頑張ると「決意表明」をされたのがとても印象的でした。また、同時開催の若手研究報告会では、3 氏から貴重な研究発表を聞くことができました。ホームページ(<http://www.tanadagakkai.com/>)に当日の様子が掲載されていますので、ご覧ください。なお、会員の皆さまからのお便りをお待ちしております。(高橋)